

資料 3

子どもたちの教育環境の充実について

～1人1台のタブレット端末整備～

令和3年2月3日
北九州市教育委員会

1人1台の使用ができる タブレット端末の整備

タブレット端末の導入

令和2年12月末までに児童生徒が1人1台使用できるようにタブレット端末を各学校に整備。あわせて教員用のタブレット端末に関しても整備。

- ・小学校6年生、中学校3年生 ⇒ 令和2年8月末までに整備済
- ・中学校1、2年生 ⇒ 同年11月末までに整備済
- ・小学校1～5年生 ⇒ 同年12月末までに整備済
- ・特別支援学校 ⇒ 同年12月末までに整備済



※特別支援学校及び特別支援学級(知的)はiPad、それ以外はWindowsを採用

※特別支援学級(知的)は特別支援学校と同時に整備

学校のインターネット接続環境の整備

◇令和3年3月末までに学校内の各教室に無線アクセスポイントを設置し、校内の無線LAN環境を整備。

※令和3年2月1日現在 174校完了(87%)／200校(LTEモバイルルータ整備6校を含む)

◇令和3年3月末までにタブレット端末を各学校から直接インターネットに接続できるようにし、校内のLAN環境の整備とあわせて各児童生徒が高速・大容量の通信を可能とする。

※これまで、全校すべての通信をデータセンターに一度集約していたため、タブレット端末を一斉に利用すると、ネットワークの遅延が発生することが懸念されていた。

※令和3年2月1日現在 158校完了(81%)／194校(LTEモバイルルータ整備6校を除く)

2

学習用アプリケーションの導入

1人1台を使用できるタブレットをより有効に活用するため、AIドリルや学習支援アプリ等を導入している。

【AIドリル】

児童生徒が解答した内容について正誤を判断し自動で採点することができ、採点後各児童生徒のデータはスタディログとして教員が進捗確認することができるもので、さらに各児童生徒のスタディログをAIが判断し苦手分野を克服するための問題を自動生成することができるものを導入

【学習支援アプリ】

簡単な操作で教員と生徒、生徒同士をネットワークでつなぎ、データの配信、収集、共有、協働作業などができるアプリを導入

【特別支援教育用アプリ】

絵や文字で個々のスケジュールを確認するコミュニケーションアプリや電子図書や教科書をハイライトしながら「読み上げることを」支援する学習アプリを導入

3

教員へのサポート体制

【校内研修サポート】

令和2年8月から学校に整備された端末を活用し、操作技能を中心とした研修支援や、ICTを活用した授業づくり支援を行っている。



【GIGAスクールオンデマンド研修サイト(webページ)の開設】

教職員がいつでも閲覧できるようにウェブサイトを開設している。

児童生徒がタブレット端末を使う際に活用できる教材、各種アプリの説明用の動画、活用事例を随時掲載し、教職員におけるICTの活用を促進している。

【ICT支援員の弾力的運用】

学校の実情に応じて集中的に配置できる体制を整えている。

【オンライン公開授業による一人一台端末活用の事例紹介】

令和2年9月にICTリーディングスクール校(門司海青小学校)にて、オンラインによる公開授業を行った。

4

整備の完了した学校での活用について①

タブレット端末の配備やインターネット環境が整備された学校では既に教育活動への利用が始まっている。

AIドリルに挑戦（小学校）

学校生活の様々な場面で生じる時間に自由にドリルアプリを活用できるようにしている。単元の予習、復習他、苦手分野の克服にも自主的に取り組んでいる。



AIドリルで高校入試対策（中学校）

朝自習の時間を有効に活用し、高校入試に向けて苦手分野の克服に取り組む。

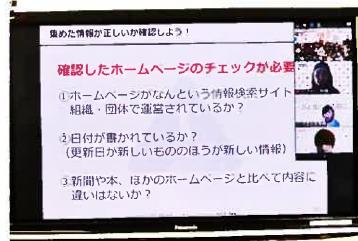
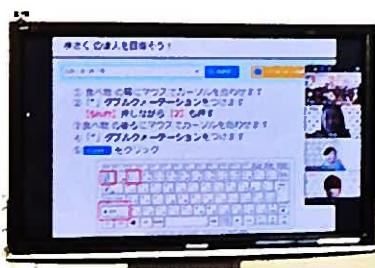


5

整備の完了した学校での活用について②

総合的な学習の時間 「インターネットで調べてみよう」

インターネット関連企業とオンラインでつなぎ、社員より検索方法やインターネットリテラシーを学び、学んだことを生かして個別に情報収集にチャレンジする。



道徳科 「自分のことについて考える」

文章を読んだ後、正直さについて自分の考えを画面上にマーキングし、全体で共有する。自分の考えを可視化して発表し合うことで、考えを深めることができる。



6

今後の取組

タブレット端末整備後のフォローアップとして、

活用状況に応じた学校のニーズに合った校内研修や

新規採用者・ミドルリーダーなど各キャリアステージに合わせた研修の実施、ICT活用における好事例集の作成・配布に取り組む。



7